

沖縄も暖かくな
ってきましたね。

今月は、卒業式など
人生においても区切
りの月ではないでしよ
うか。新たな目標に向
かって出発する、晴れや
かな気持ちで過ごした
時期です。

さて、今月は十九日、「琉
歌碑巡り」もあります。
皆さんも身近な琉歌に触
れてみませんか。

じつさう節

思ゆらば里前

島とまいていまうれ

島や中城

花の伊舎堂

読人しらす

（貴方が私を愛して下さい
るなら、私の村をたずね
て来て下さい。私の村は
中城間切の花の伊舎堂と
評判されている村です。）
昔は、男女とも自分の
村以外の者との自由な恋
愛は許されませんでした。
そんな時代に好きな男を
村へ誘う伊舎堂の娘の心
意気は、とても情熱的で
奔放に明るく感じられます。
また、恋の歌では、恩
納なべが有名でしょう。

恩納節

恩納岳あがた

里が生まれ島

もりもおしのけて

こがたなさな

恩納なべ

（恩納岳のあちらがわに
私の恋人の生まれた村が
ある。この邪魔になる山
をおしのけて、わが恋人
の村をこちらがわにひき
よせたいものである。）

恋人を想い、山を押し
のけようとする恩納なべ
の表現は、単純素朴なだ
けに、かえって力強さが
感じられます。

恩納節

恩納松下に

禁止の碑の立ちゆす

恋忍ぶまでの

禁止やないさめ

恩納なべ

（恩納番所「役所」の前の
松の木の下に、いろいろ
な禁止事項を書いた掲示
板が立っているが、まさ
か男女の恋をすべからず
という禁止までではないで
しょう。）

恩納なべの恋の歌はいか
がでしたか。今回の「琉
歌碑巡り」では、はじめ
に紹介した中城村の歌碑
と恩納村の恩納なべの歌
碑もまわります。歌碑と
景色を見て、その時代に
想いを馳せるのもまた良
いものかと思えます。